

オーストラリアの金利・為替動向

～金利と為替は当面高水準で推移する見込み～

2006年 6 月 5 日 (月)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

～ 要 旨 ～

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

オーストラリアのマクロ経済は堅調に推移している。最近の経済成長を牽引しているのは輸出と個人消費だ。国際商品市況の高騰が続くなか、石炭や鉄鉱石、原油、金などの輸出金額が大きく伸びている。個人消費も雇用・所得環境の改善を受けて、堅調に推移している。小売売上高は2006年に入ってから伸びが高まりつつあり、2006年4月は、事前の市場予想を大きく上回る前年比+7.2%となった。景気回復期待を背景に、消費者のセンチメントも改善傾向にある。

日本の個人投資家がオーストラリアに投資をする場合には、豪ドル建ての外貨預金が中心となる。オーストラリアは先進国のなかで突出して金利が高いこと、また豪ドルが他の外貨に対して上昇基調にあることが、日本から外貨預金をする際の大きな魅力となっている。

では、今後オーストラリアの為替と金利はどのように推移していくのだろうか。まず、金利についてみると、政府・中央銀行は、最近になってインフレに対する警戒感を強めてきた。オーストラリア準備銀行は、インフレを予防するため2006年5月2日開催の金融政策決定会合で、政策金利であるキャッシュ・レートを25bp引き上げて5.75%とした。米国ほど性急ではないが、今後も中央銀行はインフレ抑制を目的として政策金利を緩やかなスピードで引き上げていく公算が大きい。

また、為替レートについてみると、豪ドルは1豪ドル=85.24円(2006年5月平均)と日本円に対してすでに相当高い水準にあるが、マーケットでは日本とオーストラリアの金利差の絶対値に注目してなお豪ドルを買う動きが継続している。ファンダメンタルズ(経済の基礎的諸条件)からみても、豪ドルが売られる材料は少ない。

金利と為替が高水準で推移すると予想されることから、豪ドルでの外貨預金は当面好パフォーマンスが持続するのではないかと見られる。

リスク要因としては、経常赤字の問題を挙げることができる。2005年の経常赤字が名目GDP比で6%に達するなど、現在オーストラリアは巨額の経常赤字を抱えている。オーストラリアの経常赤字に市場の関心が集まれば、豪ドルには相当の下落圧力がかかってこよう。ただし、オーストラリアは、「双子の赤字」に苦しむ米国とは異なり、財政収支は大幅な黒字であるため、対円での豪ドルの下落リスクは米ドルに比べれば小さいといえる。